

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月8日

【四半期会計期間】 第54期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 株式会社ダイショー

【英訳名】 DAISHO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 松本洋助

【本店の所在の場所】 東京都墨田区亀沢一丁目17番3号

【電話番号】 03(3626)9321(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長兼総務人事部長 松本俊一

【最寄りの連絡場所】 (福岡本社)福岡市東区松田一丁目11番17号

【電話番号】 092(611)9321(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長兼総務人事部長 松本俊一

【縦覧に供する場所】 株式会社ダイショー 福岡本社
(福岡市東区松田一丁目11番17号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第53期 第2四半期累計期間	第54期 第2四半期累計期間	第53期
会計期間		自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高	(百万円)	9,875	9,960	20,572
経常利益	(百万円)	209	169	523
四半期(当期)純利益	(百万円)	125	101	326
持分法を適用した場合の投資利益	(百万円)			
資本金	(百万円)	870	870	870
発行済株式総数	(株)	9,868,800	9,868,800	9,868,800
純資産額	(百万円)	7,846	7,969	7,936
総資産額	(百万円)	14,381	14,001	13,669
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	13.04	10.53	33.82
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	(円)			
1株当たり配当額	(円)	9.00	9.00	18.00
自己資本比率	(%)	54.6	56.9	58.1
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	384	7	915
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	103	189	252
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	155	18	584
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(百万円)	1,310	1,541	1,720

回次		第53期 第2四半期会計期間	第54期 第2四半期会計期間
会計期間		自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	17.14	11.98

- (注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。
2 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善が続くなど、緩やかな回復基調で推移しているものの、米中貿易摩擦の影響に加え、消費税増税による消費マインドの悪化のリスクもあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、人口減少と個人消費の停滞が長期化する状況下で販売競争が激化するなか、消費者の差別化ニーズへの対応も依然として求められております。また、人手不足による人件費や物流費の上昇など、厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社は、前3ヶ年計画の反省と成果を踏まえ、2022年3月期までの中期経営計画を新たに策定し、収益構造の改革と持続的成長の実現に取り組んでおります。具体的には、「主力製品の集中販売」「業務用製品のさらなる飛躍」「新製品の開発」「次世代の組織作り」の4つの基本施策を通じ、実力ある収益力の高い主力製品を核とした事業活動にあらためて注力するなど、当社の強みをさらに伸ばしてまいります。

製品群別の概況は、以下のとおりであります。

液体調味料群においては、小売用製品では、主力製品の「焼肉のたれ」類が堅調に推移するなか、話題の人気メニューがご家庭で簡単に楽しめる『チーズタッカルビの素』、焼肉のたれの新フレーバー『焼肉通り 香味野菜しょうゆ味』などの新製品が売上を牽引いたしました。鍋スープ市場に対しては、『博多もつ鍋スープ』が順調に売上を伸ばすなか、あらたに「贅沢風味」「辛」「少人数」「野菜をおいしく」をキーワードとした、多くの製品を投入しました。このなかでも、特徴の異なる4種類のチーズをバランスよく合わせた、チーズ感たっぷりの『クアトロチーズ鍋スープ』に代表される「贅沢風味」の鍋スープが好調な滑り出しとなりました。業務用製品では、販売チャネルごとの専任部署の増設・人員拡充やメニュー開発・提案の強化など、新規開拓への継続的取り組みが奏功し、精肉向けのソース、惣菜向けのたれの伸長が売上に寄与しました。この結果、売上高は67億32百万円（前年同期比101.2%）となりました。

粉体調味料群においては、主力製品の販売強化の取り組みのもと、『味・塩こしょう』シリーズは詰め替え用を中心に堅調に推移いたしました。業務用製品では、各販売チャネル向けにラインアップを充実させ、精肉向けや惣菜向けの売上が大きく伸長いたしました。この結果、売上高は20億81百万円（前年同期比102.4%）となりました。

その他調味料群においては、新製品『トマトがおいしいもち麦サラダ用セット』を投入し、主力製品の『レタスがおいしいパリ麺サラダ』とともに売上を牽引いたしました。この結果、売上高は11億47百万円（前年同期比96.4%）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は、99億60百万円（前年同期比100.9%）となりました。利益につきましては、原材料価格は想定範囲内で推移したものの、広告・販促企画活動といった後方支援への積極投資や、物流コストの上昇の影響は大きく、営業利益は1億9百万円（前年同期比54.8%）、経常利益は1億69百万円（前年同期比80.8%）、四半期純利益は1億1百万円（前年同期比80.8%）となりました。

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ3億31百万円増加し、140億1百万円となりました。固定資産が総資産の55.7%を占め、流動資産は総資産の44.3%を占めております。主な資産の変動は、「商品及び製品」が1億98百万円、「受取手形及び売掛金」が1億89百万円それぞれ増加したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べ2億98百万円増加し、60億32百万円となりました。流動負債が負債合計の70.1%を占め、固定負債は負債合計の29.9%を占めております。主な負債の変動は、「長期借入金」が2億92百万円、「買掛金」が2億36百万円、「1年内返済予定の長期借入金」が1億66百万円それぞれ増加し、「短期借入金」が2億円、「役員退職慰労引当金」が1億87百万円それぞれ減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べ32百万円増加し、79億69百万円となりました。主な純資産の変動は、剰余金の配当86百万円の支出と四半期純利益1億1百万円の計上により「利益剰余金」が14百万円増加したことによるものです。自己資本比率は56.9%となり、前事業年度末に比べ1.2ポイント下降しました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、15億41百万円となり、前事業年度末に比べ1億78百万円減少いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益1億68百万円、減価償却費3億37百万円、仕入債務の増加額2億36百万円等による資金の増加と、たな卸資産の増加額2億13百万円、売上債権の増加額1億89百万円等による資金の減少により、前年同期比で3億76百万円支出減の7百万円の純支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出1億75百万円等による資金の減少により、前年同期比で86百万円支出増の1億89百万円の純支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる純収入4億58百万円と短期借入金の返済2億円、リース債務の返済1億53百万円等の支出により、前年同期比で1億36百万円収入減の18百万円の純収入となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社の経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における当社の研究開発活動の金額は1億99百万円であります。

なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

「第2事業の状況 1事業等のリスク」に記載のとおり、当第2四半期累計期間において、重要な変更はありません。

(7) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社の主な資金需要は、製品製造のための原材料費、労務費、経費、販売費及び一般管理費等の営業費用並びに当社の生産設備の更新、改修等に係る投資であります。

これらの資金需要につきましては、営業活動によるキャッシュ・フロー及び自己資金のほか、金融機関からの借入等による資金調達にて対応していくこととしております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,868,800	9,868,800	東京証券取引所 市場第二部	1単元の株式数 100株
計	9,868,800	9,868,800		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年9月30日		9,868,800		870		379

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
有限会社山田興産	福岡市東区舞松原五丁目21番3号	2,442	25.30
一般財団法人金澤記念育英財団	福岡市東区松田一丁目11番17号	1,488	15.41
松本賢子	福岡市東区	853	8.83
ダイショー従業員持株会	福岡市東区松田一丁目11番17号	293	3.04
松本洋助	福岡市東区	206	2.13
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前三丁目1番1号	180	1.86
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神二丁目13番1号	114	1.18
松本俊一	福岡市東区	96	0.99
松本ひかる	福岡市東区	75	0.77
松本寿子	福岡市東区	64	0.66
計	-	5,813	60.22

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 216,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,644,600	96,446	
単元未満株式	普通株式 8,200		
発行済株式総数	9,868,800		
総株主の議決権		96,446	

(注)「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式88株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ダイショー	東京都墨田区亀沢 一丁目17番3号	216,000		216,000	2.18
計		216,000		216,000	2.18

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役 管理本部長	堀脇 裕之	2019年9月30日

(2) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性10名 女性0名（役員のうち女性の比率0%）

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,720	1,541
受取手形及び売掛金	3,043	3,233
商品及び製品	749	948
原材料	326	341
その他	114	159
貸倒引当金	17	21
流動資産合計	5,938	6,203
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,250	2,165
土地	2,677	2,677
リース資産（純額）	732	649
その他（純額）	864	1,064
有形固定資産合計	6,524	6,556
無形固定資産	27	51
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,179	1,190
貸倒引当金	0	1
投資その他の資産合計	1,178	1,189
固定資産合計	7,731	7,797
資産合計	13,669	14,001

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,509	1,746
短期借入金	200	-
1年内返済予定の長期借入金	-	166
未払金	1,152	1,275
未払法人税等	96	100
賞与引当金	396	417
その他	605	522
流動負債合計	3,959	4,228
固定負債		
長期借入金	-	292
退職給付引当金	425	436
役員退職慰労引当金	778	590
その他	570	484
固定負債合計	1,773	1,803
負債合計	5,733	6,032
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	6,763	6,778
自己株式	114	114
株主資本合計	7,899	7,914
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	36	54
評価・換算差額等合計	36	54
純資産合計	7,936	7,969
負債純資産合計	13,669	14,001

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	9,875	9,960
売上原価	5,780	5,869
売上総利益	4,094	4,091
販売費及び一般管理費	3,895	3,981
営業利益	198	109
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1	1
不動産賃貸料	3	3
保険解約返戻金	9	16
受取補償金	-	40
その他	4	4
営業外収益合計	18	67
営業外費用		
支払利息	7	6
その他	0	0
営業外費用合計	8	6
経常利益	209	169
特別損失		
固定資産除売却損	9	0
特別損失合計	9	0
税引前四半期純利益	200	168
法人税、住民税及び事業税	74	67
法人税等合計	74	67
四半期純利益	125	101

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	200	168
減価償却費	342	337
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	16	187
賞与引当金の増減額(は減少)	19	21
売上債権の増減額(は増加)	731	189
たな卸資産の増減額(は増加)	181	213
仕入債務の増減額(は減少)	138	236
未払金の増減額(は減少)	51	13
その他	47	100
小計	224	60
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	7	6
法人税等の支払額	153	62
営業活動によるキャッシュ・フロー	384	7
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	98	175
その他	4	14
投資活動によるキャッシュ・フロー	103	189
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	400	200
長期借入れによる収入	-	500
長期借入金の返済による支出	-	41
リース債務の返済による支出	157	153
自己株式の取得による支出	0	-
配当金の支払額	86	86
財務活動によるキャッシュ・フロー	155	18
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	332	178
現金及び現金同等物の期首残高	1,642	1,720
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,310	1,541

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1. 原価差異の繰延処理	操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期末までにはほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰り延べる方法を採用しております。
2. 税金費用の計算	当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
販売促進費	283百万円	286百万円
配送費	1,011	1,061
給料手当	970	976
賞与引当金繰入額	277	287
賃借料	356	363

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金	1,310百万円	1,541百万円
現金及び現金同等物	1,310	1,541

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	86	9.00	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月2日 取締役会	普通株式	86	9.00	2018年9月30日	2018年12月3日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	86	9.00	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月5日 取締役会	普通株式	86	9.00	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、食品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	13円04銭	10円53銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	125	101
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	125	101
普通株式の期中平均株式数(株)	9,652,737	9,652,712

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

第54期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）中間配当については、2019年11月5日開催の取締役会において、2019年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	86百万円
1株当たりの金額	9円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2019年12月2日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月6日

株式会社ダイショー
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	西	元	浩	文	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉	田	秀	敏	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダイショーの2019年4月1日から2020年3月31日までの第54期事業年度の第2四半期会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ダイショーの2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。